



九条の会・いすみ市

会 報 39号
発 行 日 2025年 4月26日
発 行 人 九条の会・いすみ市
運営委員会

戦後80年、憲法公布79年、施行78年 ”今” 私たちのできることを!!

めまぐるしく動く世界の中で、具体的状況を追うことは大切です。

しかし、かわらない普遍的なことがあります。憲法の基本的人権であり、その中心が個人の価値であり、憲法第九条です。「戦争による加害・被害をやめさせることが大切」ということは変わりません。「不戦の誓い憲法九条」に確信を持って、できることに参加しましょう。

3月29日「戦後80年の今年 映像を観て戦争と平和を語ろう」という会をいすみ市の広報3月号に案内を掲載し、(「反戦・平和・人権・環境」の映像を観る会@そとぼうほたる協力)行ないました。47名の方が参加されました。
今年は継続的にこの課題を追求したいと考えています。

日本は敗戦を経て、天皇主権の憲法を廃止して、アメリカの憲法草案を受けて新しい憲法を制定しました。新しい憲法は、1946年普通(男女身分資産の区別なく参加できる)選挙を実施して、初めて女性議員もいる国会で圧倒的多数による賛成で制定されたのです。その憲法は「前文で憲法のコアを語り、国民主権を明確にし天皇は主権者から象徴とされました。平和主義(戦争放棄)。基本的人権(包括的基本権・自由権・社会権など)。三権分立(国会・内閣・司法一違憲立法審査権)。地方自治。最高法規。等を新しく制定」しました。人類の獲得してきた権利の👉典の総まとめとして結実したのです。
憲法の最高法規の👉がそのことを明示しています。その中核は前文と人権規定、九条です。

九条の会は、憲法の九条を守り生かそうという2004年6月10日に9人の方々のアピールへの賛同者によりつくられました。この力により、いままで憲法の明文改憲を阻むことができました。ところが、2014年安倍政権は、政府のそれまでの「集団的自衛権は認めない」から憲法解釈を閣議決定という形で「集団的自衛権行使はできる」と変更しました。その後2015年「集団的自衛権の体制」安保法制を制定しました。

九条の会・いすみ市はその時期、2015年1月24日にこの地に九条の会の活動を広めようとつくられました。

その後の政権は、集団的自衛権実行へ向けて2022年閣議決定体制で安保3文書を作り、軍事予算を、2014年の約4.88兆円から2025年8.7兆円へ倍増し、攻撃型武装強化、基地強化をしています。有事の際の避難計画が実施される状況です。
石破政権への期待が語られた時がありましたが、日米共同声明でトランプ政権へのさらなる協力が明らかになりました。トランプ政権の暴走は世界の人々を不安にさせています。

核兵器禁止条約の第3回締約国会議が開かれて核兵器禁止の声を広げています。

(現在、核兵器禁止条約には94カ国・地域が署名、73カ国・地域が批准)

被団協の活動、九条の会の活動は人類の普遍的価値(人)を守ろうという継続的な活動です。継続的活動が世論を動かします。

「戦争は人の心を鬼にします。」と沖縄戦体験者は証言しています。

殺し、殺される関係にたたされる前に止めましょう。

2025年4月26日
九条の会・いすみ市 運営委員会

九条の会呼びかけ人 「澤地久枝 94歳 婦人公論の記事」を紹介します。

以下3つのことを呼びかけます。署名活動二つと九条の会員の拡大です。

① 新しい署名 別紙署名用紙

税金はくらしの拡充に、戦争準備の軍拡は中止して、
憲法、平和、いのち、くらしを守る政治への転換を求める請願署名（略称＝大軍拡反対署名）

②日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）（ノーベル賞平和賞受賞）署名活動

私は、日本政府に核兵器禁止条約の署名、批准を求めます。

この会は年会費500円です。会費により年4回の会報発行などを続けてきました。

③継続的活動を続ける基礎の会員を拡大しましょう。

九条の会・いすみ市 運営委員会

3月29日学習会 ―映像を観て戦争と平和を語る会―

ドキュメンタリー映画『カタロウガン！ロラたちに正義を！』を観て

参加者から寄せられた感想・YSさんより

アジア太平洋戦争で日本はアジアの国々島々を侵略していきました。この映画は「もうひとつのレイテ島」として、慰安婦とされたロラたち（おばあさんたち）の記録だと思いました。

歴史修正主義者はこのような事実を無かったことにしたい。そのような人たちが「改憲」を企み、新たな「戦前」を作り出していることに怒りを感じます。

兵士にとって戦争は、加害側にとっても被害側にとっても「敵」を殺し、殺される局面になる中で精神が破壊されていくもの。常軌を逸した兵士にとって「敵」を殺すことや一般市民まで虫けらのように殺したり、幼気な少女まで性奴隷として欲望を満たす対象にしてしまう。

ロラたちが加害の側である日本人の竹見監督を信頼し、自分の忌まわしい消し去りたい記憶を話す勇気を持つまでに、何度も何度も人間同士の心の交流を重ねたであろうことが、このドキュメンタリー映画の様々な場面から感じ取れました。涙を流しながらも、フィリピンの陽気な気風でロラたちが笑い合い共に支え合いながら、晩年を強く生き抜いていることに深い感動と、同時に加害側の日本人として複雑な思いが残ったことも事実です。

学習会

5月3日 憲法記念日（全国集会）

5月24日 6月21日

7月26日 8月23日

土曜日

時間 10:00～12:00

九条の会最新ブックレット

「改憲・軍拡と憲法審査会」毎回持参ください

―2025年の行事予定―

・映像を観て戦争と平和を語る会

・憲法カフェ・戸外交流会

今年は何かやりたいですね！企画等ご提案ください

場所 岬公民館 住所 岬町長者22

電話 0470-87-6111

ほっとタイム

アメリカがトランプ政権になり関税の引き上げや人権後退の政策強行、時代時計を逆回転するような状況のなかで世界中を混乱に陥れ、日米関係は日本に大きな負担影響を及ぼしています。軍事費拡大の陰であらゆる食品は値上げの嵐、米不足高騰は日本の農政の弱さを歴然と表し私たちの暮らしは苦しくなるばかりです。日本は戦争も食料不足による飢餓も関係ないと思って暮らした時代はもう既に過去、今は一歩間違えばアメリカや他国の戦争にも巻き込まれる危険性もあり、憲法九条平和主義が危機に晒されています。また、お金の有る無しにかかわらず食べられなくなることもあり得る時代になってしまうのではないかと、日本の食料自給率の低さから考えさせられることも増えました。九条の会の学習会では様々な時事問題もディスカッションしています。

Rumi Kawashima